おしゃべりじゃ～なる

女性の目で見た地域情報紙

編集と発行　富田栄子＆上田眞由美
発行所　〒334-0001 埼玉県鳩ケ谷市桜町2-9-5 TEL.FAX 048-285-6208
創刊　昭和63年10月2日
発行部数　16,000部（無料配布）
発行日　2.4.6.8.10.12月の隔月発行

獅子頭でコンニャクギトウ

江戸時代から続く伝統行事

無病息災を願って町内一周

めずらしい鳩ケ谷独特の民間信仰

本町三丁目に古くから伝わり、今も受け継がれている「コンニャクギトウ」という伝統行事がある。今年も4月4日（日）に疫病を追い払う祈祷がされ、3体の獅子頭を車に乗せて、お札とこんにゃくの味噌おでんを町内に配るめずらしい行事が行われた。

お賽銭を入れる獅子。獅子頭を車に乗せて町内をまわる。

コンニャクギトウは、現在は4月の第1日曜日に行われているが、昔は毎年4月9日に鳩ケ谷本陣だった船戸家の不動堂で行われていたという。

獅子頭は本陣にあったものだが、昭和29年に御嶽神社の境内に獅子社を建立してオジシ、メジシ、コジシの3体の獅子頭を安置し、町内の所有となった。

当日はこの獅子頭に、こんにゃくの味噌おでんを配る。01:57が流行病の時には、不衛生だというので御菓子に変えたときもあったが、町会の人たちは江戸時代から伝わるこの行事を今も大切に守り続けている。

コンニャクギトウの由来ははっきりしないが、郷土資料館の入館記念スタンプにもなっている獅子頭

立派な3体の獅子頭

神主さんの祈祷で始まる（獅子社で）

女子社員に花束を贈ってニッコリ

ブルドックソース鳩ケ谷工場を視察

5月20日（木）、土屋知事が「さわやかふるさと訪問」でブルドックソース鳩ケ谷工場を訪れた。現場を積極的に見て回り、直接地域住民や企業の声をはじめ、鳩ケ谷の要人が顔を揃え、商工会や鳩ケ谷街おこしをする福祉センター、芝原小学校、同校の空き教室を利用した老人デイサービスセンター「芝南」、村田製作所、工場アパートの「川口緑町第1工場」など6カ所を訪問した。

土屋知事の さわやかふるさと訪問

グレーのスーツにブルーのネクタイ。さきさくに市民と握手する土屋知事。

を聞こうと実施されたもので、工場見学のあと、女子社員から花束を貰ってニッコリ。「春日部から単身赴任して自炊、ブルドックソースを使ってます」とユーモアたっぷりに挨拶。この日は市長

図書の無料配布

教育委員会発行の図書が無料で配布される。

●鳩ケ谷市の文化財第21集「鳩ケ谷の建造物（二）商家一」
●鳩ケ谷市の古文書第23集「不二道農産物品種改良運動資料集1」

の2冊でいずれも興味深い貴重な資料ばかり。先着順で各百冊を市役所6階の社会教育課で、6月7日から配布される。

鳩ケ谷市文化財学習会

「小谷三志の教えと社会奉仕活動の記録から」

◎参加者募集

江戸時代の鳩ケ谷を代表する「小谷三志」は富士講の指導者として有名な人物ですが、教育委員会が発行した「不二道農産物品種改良運動資料1」をテキストに、その著者が解り易く解説しながら、三志の教えとその社会奉仕活動の様子を探ります。

◎6月26日（土）午前10時～12時
◎講師　文化財保護委員長　岡田　博氏
◎定員　30人
◎会場　中央公民館
◎受付　6月7日から
◎申込み・問い合わせ　鳩ケ谷市教育委員会社会教育課　☎280・1111（内線5333）

トウを縁って死んだ魚屋のきいさん」（鳩ケ谷の民話）という昔話も残っている。

こんにゃくを食べるとお腹の中のススを払って病気にならないといわれ、疫病除けとして始まったらしい。「コンニャクギトウを縁って死んだ魚屋のきいさん」（鳩ケ谷の民話）という昔話も残っている。

親切、丁寧、良心的な
ご葬儀をお約束しています
川口市・JA新郷・JA安行指定
鳩ケ谷地蔵院葬場
株式会社グリーンセレモニー
24時間受付センター
寝台車運行・全国どこへでも
0120-82-5420
本社　川口市本蓮2－25－4
支社　鳩ケ谷市桜町2－12－9
生花・花環・返礼品・仏具・葬儀一式

鳩ケ谷市商工会
鳩ケ谷市本町2-1-1
☎　048(281)5555(代)
FAX 048-285-6630

夏のさわやかだより
かもめ～る発売中
くじ付はがき
●無地・絵入り3種類
鳩ケ谷郵便局

6月20日は父の日
●グリーンシティは夜9時まで営業しています
【イベント案内】
つくって遊ぼう『遊びの学校』
紙皿でピンポン玉ラケットをつくろう
日時　6月12日（土）　13:00～
場所　1階フェスティバルコート
ジャスコと120の専門店
GreenCity
住所／川口市根岸3180　TEL.048-283-1010　営業時間／あさ10時～よる9時

おしゃべり談話室

イヤな食事の誘いこれってセクハラよね

営業先の担当者に、度々食事に誘われます。「たまには仕事を離れての夕飯でも…」などとプライベートな付き合いをほのめかされることもありますし仕事のことを考えるとむげにも断れなくて困っています。

以前に先輩のC子さんが、「セクハラ」だって言ったら「別に君が女だから言うんじゃない。セクハラと言われるのは心外だ。意識過剰じゃないの？」と反論されて、そのイベントや営業先とは気まずくなったと聞いたことがあるので…。上司にも訴えるのも大げさだし、訴えた場合、後で恨まれやしないか心配です。取引先なので言い方ひとつで私だけじゃなく、会社まで信頼関係が壊れたらと思うと怒ってはっきり断れません。これってセクハラですよね。それが嫌で会社辞めようかなって思っています。

（川口・匿名希望・27歳）

どんな野菜ができるのかな

本町2丁目の市民農園に紫色のナスの花が咲いていた。住宅地の中の農園だが、朝早くから自転車で水やりにやってきている。

玉堂美術館

東京・青梅市

枯れ山水の庭を見ながら気品ある玉堂の作品を鑑賞

外環、関越道、圏央道青梅ICまで高速を使って鳩ケ谷から約1時間40分。新緑が美しい奥多摩の清流のほとりに、日本画家の巨匠・川合玉堂の作品を集めた「玉堂美術館」が建っている。

すばらしい景色との調和

御岳渓谷の自然をこよなく愛し、日本の自然、四季のうつろいを描き続けた玉堂は、71歳の時に疎開、亡くなるまでの14年間をここで過ごした。

没後4年目に地元有志や全国の玉堂ファンからの寄付でこの美術館が開館。数寄屋造りの建物、白砂をしきつめた枯れ山水の美しい庭園、深い渓谷とせせらぎの音、背景の山々もすべてが玉堂の作品と重なってみえる。年7回の展示替えの度に訪れる人も多いという。

孫にあたる川合三男館長は「玉堂は気さくでわけへだてなく、小学生の写生を手伝ったり、気軽に絵をプレゼントする人だった」と祖父の思い出を語る。そして、死の直前まで「楽しい。もう少し絵を描く時間が欲しかった」と語ったという。

☎0428・78・8335【入館料】500円
月曜休館。

お好み焼
さかえ
南2郵便局そば（P有り）
☎282－9511（水曜定休）

催しもの

太極拳を体験してみませんか！

太極拳はゆっくりと無理をしないで、意識で動かす健康運動。年齢に関係なく誰にもできる生涯スポーツです。運動できる服装と上靴を持参してお気軽にどうぞ。無料。

●日時　6月13日（日）10時30分～12時
●場所　桜町小学校体育館
●連絡先　小川（28l・8500）
●主催　鳩ケ谷市太極拳協会

大間々うどんづくり体験講座に参加しませんか

友好都市交流事業として、6月27日（日）大間々うどんづくり体験講座が大間々町の小平の里で開催される。

定員は30名。市内在住・在勤者が対象で、参加費は材料費の8百円のみ。市の中型バスを利用して、大間々町まで行く。申し込みは6月1日（火）から21日（月）まで市役所庶務課自治振興課へ。先着順で定員になり次第締め切り。

心が通う贈り物…
ともえ
沼口米菓株式会社

鳩ケ谷の特産品
最中　鳩の舞
ふるさと料理　九助
昼12時より1時30分／夕方5時より夜11時30分
川口市朝日2-25-3
☎048-223-9638
（毎週月曜日定休）

丸十パン
(282)3071
食パンの焼きあがりは10時と14時30分

おしゃべりChannel

今年は阪神が面白い

「阪神って、こんなに強かった？」「気の早い阪神ファンはもう優勝って騒いでるわよ。関西はすでに経済効果がすごいんだって」「やっぱり野球は監督なんだね。今の阪神からは、セ・リーグの昨年の最下位チームだとはとても思えない」「監督が代わって、言いたくなるほどの活躍だもんね」「いくら野村監督でも、チーム改造にはもう少し時間がかかると思っていたけど、今の阪神を見ていると、改めて野球は監督だったって認識したわ」「野村監督のチーム改造は一般社会にも言える。阪神の選手がマスコミに、『監督が代わっても優勝しやすくなることは変わりませんから…』という発言に怒ったんだって。『選手が考え方を変えなきゃだめだ』って」「選手の意識改革だね」「そう。仕事でも運動でも、本人のやる気が大切じゃない。いかに、人をその気にさせるかが、指導者として一番難しい。同じプロ野球の選手だもの。実力的にはさほど差はない。差があるとすれば意識よ。今、阪神の選手は野球が楽しくてしょうがない。監督の言う通りにしたらもしかしたら?…今年のプロ野球は阪神が面白い！」「野村さんは若者の意識調査でも理想の上司の1位にランクインされている。ところで巨人も監督が代わったら勝てるのかなあ――」

高所作業・看板製作／切文字・ネームプレート・彫刻
かんばん
㈱ゆーえー
本社／東京都北区志茂2丁目64番9号 TEL.(03)3598-0571代
工場／埼玉県鳩ヶ谷市緑町2-13-8 TEL.(048)283-5641
営業所／茨城県猿島郡三和町仁連1631-2 TEL.(0280)76-1983

手作りの
ケーキとパンの店
「リン」です。
本町郵便局前2件目
☎286－6718（日曜定休）

こちらおしゃべり編集局

お世辞に若いネって言ってくれるけど年相応のガタは来てる。ただノーテンキの性格が幸いしてか精神年齢だけは未だ青春！好奇心が旺盛のうちは既製にとらわれず興味あるものを追いかけて行こうと思っている。美術館・本屋・ゴルフ・露天風呂etc 好きなこと楽しいことしかしないのが私流なんです（E）

「塀の上に登るワンちゃん」が、埼玉新聞で「鳩ケ谷版・忠犬ハチ公」になってデビュー！今度はコンニャクギトウの獅子頭を有名にしなくちゃ…。大阪産の私、最近、六甲おろしの眠れぬ夜を過ごしています。プラス思考で負けることには慣れているのに何だかノムラさんが素敵に見えてきた。（M）

都知事賞受賞・国家検定合格・眼鏡調整士
とけいめがねの日新堂
鳩ケ谷市本町3丁目17の10
電話（048）283-7244

資生堂・コーセー・ディシラ
アクセサリー・袋物
ヨロヅヤ化粧品店
本町3丁目（281）4328

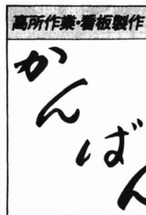
記念品・御贈答品
セトモノ お茶 竹屋
048（281）1305

花のご注文は当店へ
全国にお花を贈ります
はい花飾です。
桜町5-2-10
地蔵院通り　285－2287

人にこたえる住まいづくり
総合建設業
（株）ムサシ
今、花開く暮らしのイメージ
家は私たちが創造します
一級建築士　高橋　雅則
鳩ケ谷市桜町2丁目4番25号
☎048（283）8511

ふたりの家

女子中・高生の間で「いいこと」をするたびにシールを張って、百枚たまるとなんでも願い事がかなうという手帳「ヘブンズパスポート」が流行っている。発案者は23歳のデザイナー・沖田龍一さん。「いいことはカッコいい」をコンセプトに若者に道徳心をつけさせようという狙いがあるらしいが、こんなゲームなら大歓迎♣集団で行動する今の子供たちはいいことはしたいけど、ダサいとかいい子ぶってるとか言われるんじゃないか、仲間外れになるんじゃないかという気持ちが強い♣ゲーム感覚なら、みんな堂々と「いいこと」ができる♣朝、一人で起きられた、遅刻しなかった、ゴミを ごみ箱に捨てた、電車で席を譲った…♣今の女子中・高生ならすぐに願い事がかなってしまいそうだが、当たり前の「いいこと」をした後の心地よさ、人と人とのふれあいを体験してくれればそれでもいいと思う。



立派な3体の獅子頭

和洋酒・お米・ギフトのご用命は！
（有）マスヤ酒店
年中無休
配達承ります。平日7時、日祭日6時迄。
桜町郵便局トナリ
☎281-2968

よみがえるファッション・クリーニング
共栄舎
東川口4-1-5　☎296－786.0

家庭に音楽 未来に夢を…
赤井音楽センター
川口市東本郷2-1-27
☎284-8202

JOMO
株式会社 ジャパンエナジー 特約店
日本自動車連盟 取扱店（JAF）
埼玉トヨタ 日産自動車 指定給油所
（有）武南石油
■第1サービスステーション 桜町2丁目 ☎283-1218
■第2サービスステーション 国道122号線 ☎282-0966

★第11回おしゃべりカルチャー
中山道蕨宿ぶらり旅

さわやかな太陽に木々の緑が輝き、初夏の風に揺れる。第11回の『おしゃべりカルチャー』は、ちょっと趣向をかえて、おしゃべりじゃ～なるの二人が案内人。江戸時代、中山道の宿場町として栄えた蕨。古い神社や老舗の醤油。あちこちに点在する江戸時代のにぎわいの跡に歴史を感じながら…。中山道・蕨宿ぶらりふたり旅！

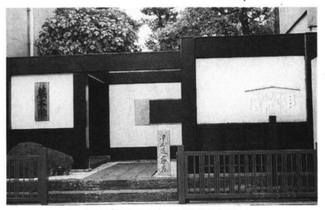
歴史民俗資料館

5月15日（土）の朝、ちょっぴり気嫌の悪そうな空模様も何のその、弥次・喜多コンビは『中山道・蕨宿』を目指して出発！まず最初に訪れたのは蕨市立歴史民俗資料館。

資料館では蕨宿に関することを中心に、蕨城を治めた渋川氏の関係文書や板碑など、中世から江戸時代終わりに織物が発展するまでの歴史、文化を各テーマごとにきめ細かく展示、紹介している。

江戸時代、幕府は五街道を中心に諸街道の整備を行った。五街道のひとつである中山道は、江戸日本橋と近江国（滋賀県）守山宿を結ぶ街道で、蕨宿は板橋に次ぐ第2の宿場。中山道67宿のうち、5本の指に入る大宿場町として物売り、茶屋、旅籠などがひしめき、中山道を旅する人々で賑わいをみせていた。

中山道沿いを歩くと昔の面影を残す家並みがあって、どこか鳩ケ谷の日光御成街道にも似ている


昭和48年に復元された蕨本陣の正門

蕨本陣

歴史民俗資料館の隣にあるのが蕨本陣跡。昭和48年に復元された正門が目をひく。蕨の本陣は、加兵衛家と五郎兵衛家の2家が代々勤め、宿場の中央に中山道をはさんで向いあって建っていた。

蕨宿の名主・問屋を兼ねていた本陣の加兵衛家（現・岡田真雄家）に残る資料によると、老中水野忠邦や大名、公家などが休泊。皇女和宮降嫁の際のご休憩所になったほか、明治天皇の大宮氷川神社行幸の際にも2度はあまりにも有名。

長泉院・おしゃみの鐘

駅前通りの商店街をウォッチングしながら、通称「おしゃみの鐘」で知られる『長泉院』へ。長泉院は宝暦3年（1753）に創建、禅宗をもたない祈願寺で、円実という沙弥が創建したことから「おしゃみ」と呼ばれるようになった。梵鐘は時の鐘として親しまれ、水戸の弘道館の鐘と並んで、江戸時代の名鐘の一つに数えられている。

あれ？梵鐘がないよ！梵鐘が本堂の屋上にあるのにはビックリしたが、その美しい音色は、大晦日の除夜の鐘のときに聞くことができる。

長泉院の梵鐘
本堂の屋上にあるので、見学したい人は予約をして見せてもらおう

御小休されている。思わぬ幸運！資料館の岩崎英子館長のご紹介で、本陣の岡田家を訪ね、昔の蕨の町の様子やこぼれ話などを聞くことができた。ミーハーの私たちは皇女和宮のご休憩より、あの鬼平犯科帳の長谷川平蔵が蕨宿に来た？という噂話に時の経つのも忘れておしゃべり。突然の訪問にも温かく応対してくださった館長さんに感謝しつつ岡田家を後に。

午後から、蕨市の歴史や文化財を訪ねる「春の文化財巡り」に合流させてもらう約束をして、歴史民俗資料館とはひとまずお別れ。

【写真・上】蕨市立歴史民俗資料館

【写真・左】
資料館にある『本陣上段の間』には当時の大名のタ食の献立を再現している。弘化元年（1844年）5月に牧野遠江守が本陣に宿泊したときのもの。

閑静な住宅地に点在する
江戸時代のにぎわいの跡
宿場の面影を残す歴史の町

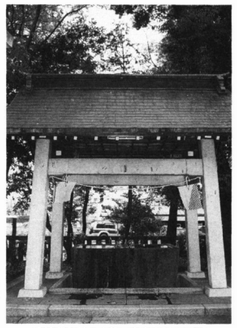
和楽備神社

城址公園と和楽備神社

旧中山道から道を渡ってなっている。城址公園が作られたのにはちょっとしたいきさつがある。隣接する戸田市が蕨城は戸田にあったと主張し、これに対して、蕨市は城址公園をつくって対抗したとか。

城址公園の隣の『和楽備神社』は、蕨城の守護神として八幡大神を祭ったのが始まりと伝えられ、朝時代に渋川氏が居を構え、大永4年（1524）に北条氏綱によって落城した。現在はわずかに堀跡を残すだけだが、市民の憩いの場所になっている。城址公園が現在はわずかに遺跡が残るだけだが、城址公園として市民の憩いの場になっている

蕨城跡


和楽備神社の水盤・安山岩製で上野の寛永寺にあったものといわれている

三学院の総門で文化財めぐりの人たちと合流
右に「梵字馬頭観音塔」、左に「六地蔵石仏」がある

木造僧形八幡立像
現在は資料館に展示されている

三学院

天正11年（1583）と銘のある木像僧形八幡の立像の岡田鏡次郎長と、東宮が安置されている。

明治41年に城址にあった御守殿社を始め、蕨町内の18の鎮守社を合祭してつくった神社で、神社名は蕨の一字だけでは尊厳さがないというので、当時待請の本居博士によって、万葉風に「和楽備神社」と改名された。神社の池は蕨城のお堀の一部。

「三学院」は、元亀年間（1570）以前の開創と伝えられる真言宗の寺。古くから関東七か寺の役寺として、僧侶の育成、教化にあたってきた格式の高い寺で、天正19年（1951）に徳川家康から二十石の朱印を拝領している。

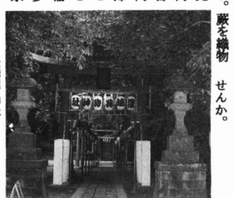
三学院参道の入口には大きな金亀山三学院と書かれた寺標。梵字の馬頭観音塔、六地蔵石仏が安置され、明治28年に建てられた総ケヤキ造りの総門がある。参道を歩いて行くと、仁王門、くぐると正面に荘厳な本堂が見えその規模の大きさに圧倒される。最初の本堂は享保の大火で焼失、その後再建。現在の新本堂は、昭和46年に建てられた。境内には、目の病気に効くお地蔵さんとして、その目に味噌を塗り願をかけると治るという「目疾地蔵」、元禄7年に建立された高さ2.8mの石造立像の「子育地蔵」などが蕨市指定文化財がいっぱいだ。ゆっくり時間をとりたい。

三学院入口にある『子育地蔵』
高さ2mもある石造立像

塚越稲荷神社

蕨では毎年8月に商工業の発展を祈願して「機まつり」が行われる。

いつもは何げなく通る蕨の町もじっくり歩けば、ちょっとしたタイムトラベルが楽しめる。あなたも弥次喜多道中してみませんか。


織物業発展の中心地・塚越には明治の全盛期には120軒もの機屋があった

塚越稲荷神社

川口記者クラブの二年半の思い出

埼玉新聞　新井　健治

織繊物資産だった民家では古老から話が聞けた。離れる際には、また、「家の前の道が狭く、買い物に出歩くのも不自由している。なんとか整備できないか」。そんな願いを記事にすることもなく、担当を外れる。

5月中旬から浦和市政クラブに異動になった。二年半の間、多くの市民にお世話になった。鳩ケ谷市での最後の取材は桜町の「忠犬ハチ公」だった。この記事は話題になり、他のメディアからも問い合わせがきた。

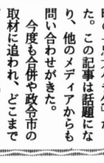
今度も合併や政令市の取材に追われ、どこまで町をじっくり見ることができるか疑問だった。浦和を離れる際には、また、どかしさが残るかもしれない。でも、記者であるかぎり、そのもどかしさを忘れたくない。

川口記者クラブに所属していた私は、鳩ケ谷、川口、戸田、蕨の四市を担当していた。ちょうど黒田さんのサツ回りと同じ立場だった。川口を語るキーワードは「鋳物」「植木」「マンション」と幾つもある。

だが、記事にその形容詞をかぶせたただけで、果たして町のことをどれだけ知っていたのだろう。

日々の出稿に追われ、町をじっくり見学する暇はほとんどなかった。今、意外な発見がある。旧日光御成道沿いを見て回った時には、宿場町だった面影を残す古い建物に感動したことがある。戦前、しゃべりじゃ～なるの二人もやましかった。

町中をじっくり歩けば



57

元読売新聞大阪本社社会部長で、現在は「黒田ジャーナル」代表の黒田清さんの著書『新聞記者の現場』（講談社現代新書）を読んだ。黒田さんは通称「サツ回り」時代、駅前の商店街を一軒一軒訪れて地図を作った。喫茶店でおばあちゃんと泥棒の話をしたり、古道具屋の主人から寺や祭りの解説を聞かされたり。